



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 352

November 2020

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

新型コロナウイルス感染拡大に際して「AHA」を

会長 栞田 義一

11月に入り新型コロナウイルス感染が再び拡大しています。国内では一日当たりの感染者数が1000人を超えました(11月5日)。神戸市内では9月以降一時感染者数が一桁台で続いていましたが、先月下旬から兵庫県内の感染者が急増し、県では警戒レベルが2番目に深刻な「拡大期I」に引き上げられました(11月6日)。

ドイツでも10月から感染者数が急増し、22日には初めて一日当たりの新規感染者数が1万人を上回り、11月8日には一日の感染者数は19470人になりました。ドイツでは感染拡大防止のためにフランスなどの隣接国との国境において出入国の暫定的制限がとられ、2日からは新たな感染対策として11月中の飲食店・文化施設等の閉鎖などが発表されて、人々の一般の生活において「人と人との接触」に今後一層の制限が加えられることになりました。このような措置に対してメルケル首相は、この新しい諸規制は「人と人との接触」を少なくするために必要不可欠であり、この11月に再びパンデミックに戻らないようにする共通の成果が遂げられるか否かは我々の掌中にあると強調しています。ヨーロッパの中でこれまで感染拡大をうまく防止してきたドイツでも今回の感染拡大では大きな影響を受けています。

日本国内では市中には with Corona 下での新しい日常が見られるようになり、特に10月から Go to Travel、Go to Eat 等の Go to キャンペーンの地域支援策により街にも活気が見られますが、その反面、人の密が憂慮されます。協会でも活動の自粛をこのまま継続するのではなく、感染終息の見通しのまったく見えない中の with Corona 下での活動について実行委員会にて検討を重ねています。感染防止を配慮しながらの日常が回復されつつありますが、この時にこそ気を緩めることなく、しっかりと感染防止の基本的な励行「3密の回避」に加えて「AHA」に努めましょう。

Abstand(人と人との間隔)、Hygiene(手洗いの励行)、Alltagsmaske(マスク着用)を!

(ドイツ連邦保健省感染予防対策ポスターより)

さらなる感染拡大が懸念されている冬季を迎え、会員皆様には一層ご自愛ください。

柘田義一会長 兵庫県功労者(国際協力功労)表彰受賞

理事 押尾 愛子

当協会の柘田義一会長(神戸大学名誉教授)が、2020年度兵庫県功労者(国際協力功労)表彰を受賞されました。

柘田会長は、1980年に神戸大学着任とともに神戸日独協会に入会し、常任理事、副会長(会長代行)を経て2015年から会長を務められています。その間、協会のドイツ語講座を40年近くにわたり担当してこられました。神戸大学在職中は、兵庫県下の諸大学の独文学科にても、ご専門のドイツ語学についての諸講義を担当されるとともに、ドイツ語圏の大学との交流協定締結に尽力されてきました。神戸日独協会にても現在ドイツが直面し、しかも日独関係において重要なテーマについて、定期的に講演会等を企画され、現在のドイツをより深く知って神戸での日独交流を一層深めることに率先してこられました。これらの業績から2016年に「ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章」を受勲され、今回はそれにつぐ受章です。

受賞を心からお祝い申し上げますとともに、先生の益々のご活躍と、当協会においてもより一層ご尽力頂けるようお願い申し上げます。

訃報

元理事の中谷嘉宏氏(株式会社ドイツ商事会長)が
去る10月1日に逝去されました。

中谷嘉宏さんは25年以上の長きにわたり理事・常任理事として協会の運営と活動に一方ならぬご尽力をしていただきました。ドイツワインの普及に努められ、当協会でもドイツワインについてご講演や試飲会を多くしていただきました。ドイツワインへの情熱にあふれたご講演が懐かしく思い出されます。ご講演のみならず協会のドイツワインイベントなど現在の行事の基礎をも築いてくださいました。若者の国際交流にも広くご尽力され、理事会などでいただいた「若者交流」についてのご指導は以後の協会活動に生かさせていただいています。協会に大きなご功績を残してくださった方がお亡くなりになり、ただただ悲しみと寂しさを深くしています。

ご生前のご厚誼に深く感謝をするとともに、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

会長 柘田義一

感染防止期間特別企画 『自宅でドイツを楽しもう！』

『家庭でドイツ料理を作りましょう』

Go to eat キャンペーンが喧伝されていますが、ウイルス感染を配慮して外食を控え家での食事を続けている方もいらっしゃると思います。このコーナーは、「家食」の献立にドイツ料理を取り入れていただきたく設けました。

今回もこのコーナーのために初めてご紹介して下さるお料理です。お料理にまつわるお話も執筆していただきました。

第4回 「コンビーフ入りポテトケーキ」と「リンゴの揚げ菓子」

料理研究家 日下部管子さん

1. コンビーフ入りポテトケーキ (Kartoffelkuchen mit Con Beef)

この料理は、ヘルマン家の隣の家に招かれたときいただいたお料理です。

この料理に使用するカイエンヌペッパーは赤く熟した唐辛子を乾燥させ、粉末状にしたものです。風味や辛みを足したり、獣肉の臭みを消すために使われます。アメリカやヨーロッパ、アジア全土で使われています。

木々の色づいた一日、今回のお料理の試作をしている時に思い出したことをご紹介します。

* 二つの鍵の思い出

一つ目の鍵の思い出。

ドイツのマールブルグでの生活が始まった晩秋に、鍵にまつわる忘れられない思い出が二つあります。

ひとつは、ヘルマン家に着いたその翌日、ホストファーザーの Dietmar に誘われて、マールブルグの丘の上に登った日のことです。

丘の方へ登ってゆくと、周りには背の高い落葉樹が色づき、足元にはたくさんの落ち葉が積もっていて、歩くとカサカサと音がしていました。しばらく歩くと丘の上に小さな塔があり、入り口は鍵がかかっていて、管理人に鍵を借りなくては入れませんでした。

突然、Dietmar が私に振り返り、「1マルク(100円ほどのコイン)を持ってるか？」と尋ねました。彼の申し出に、心の中で「どうして私が鍵代を払わなくてはいけないの？あなたが誘ったから来たのに、私にお金を出せなんて、やっぱり、ドイツ人ってケチ！」と思いながら、1マルクを渡しました。そのあと、鍵を借りて扉を開け、螺旋状になった階段を登ってゆきました。

やっと屋上に上がると、美しいマールブルグの街並みが眼下に広がっていて、その向こうにライン(Lahn)川がゆったりと流れ、さっきの1マルクのことなどすっかり忘れて、古くて美しい街並みに見とれていました。しばらくして、彼にそろそろ家に帰ろうと促され、階段を下り、また管理人のところへ鍵を返しにゆきました。そのあと Dietmar は、「さっきはありがとう」と言って1マルクを返してくれたのです。

なんと、さっきのお金は、塔に入るための代金ではなく、お金のあるなしにかかわらず、だれでも気軽にに入れて、かつ古い遺跡を大切に守るための保証金のようなものだったのです。そのあと、あちこちの小さな城や塔にも登りましたが同じようなシステムになっていて、それは、今を生きているドイツ人が昔のものを守り、そのまま、後世の人に伝えるための1マルクであることに気が付きました。二つ目の鍵のお話は、またいつか…。

2. リンゴの揚げ菓子 (Apfelkuchele)

今回の二つのお料理は、小さいびつに見えるかもしれませんが、味は間違いなくドイツの味です。

*リンゴの木の思い出

ヘルマン家の裏庭には大きな大きなリンゴの木がありました。

夏になるとその枝にシーツのような軽い布をかけて木陰を作り、その下で食事をしたり、ティータイムを楽しんだり、時には仲の良い友人たちを招き、長い夏の日を楽しんでいました。ヨーロッパの夏は陽が落ちるのもずいぶん遅く、8時を過ぎても太陽がまだ頭上にあり、私たちも時間を忘れて外であれこれ楽しい時を過ごしたものです。

やがて、秋が来ると9月の末から10月にはたくさんのリンゴの実がなりました。リンゴの実は日本にある甘くて大きな実と違い、それほど甘くなく小さなものでした。

休日には、家族総出でリンゴの実を摘むのですが、まず牧師の仕事をしている Ditemar が、私たちに「上から1/3のリンゴの実は、この季節、越冬のために南に渡る鳥たちの食料として残しておきなさい、それから地面に落ちたリンゴの実は地に住む、リスやウサギ、ネズミなどの小さな生き物たちへ神様が与えたものだから、取ってはいけない、そのままにしておきなさい」と言い、私たちは彼の言葉に従ってリンゴ摘みをしました。彼はあまり人の悪口など言う人ではなかったのですが、なぜか、リンゴの実る季節になると「イタリア人は嫌いだ、やっと南に渡った鳥たちを、網にかけて捕まえて食べてしまう野蛮人だから」とぶつぶつ言っていました。籠いっぱい摘んだリンゴの実を台所に持って行き、それからお母さんの Erika が毎日毎日リンゴのコンポートやジャムなどを作り、たくさん瓶詰をして、その後、地下の食糧庫に私たちがそれらを運ぶ日々が続きました。

☆レシピは、調理時の便を考慮して別紙にて同封しています。

『ドイツの魅力、素晴らしさを共有しましょう』

ステイホームでドイツ文学をはじめドイツに関する書籍等を読んだり、ドイツ関係の映像を見たりしての紹介・感想などなどをお寄せください。「ドイツの魅力」を共有しましょう。ご寄稿をお待ちしています。

ドイツ総領事館主催日独交流160周年イベント

「大阪ドイツ映画祭2020」のお知らせ

日 時： 2020年11月28日(土)10:00～19:30

場 所： 大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー 常翔ホール

プログラム： ☆音声はドイツ語(日本語字幕つき)

10:00～12:00 「嘘つきヤコブ」“Jakob der Lügner”(1974年、フランク・バイヤー監督、100 min.)

12:30～14:30「僕たちは希望という名の列車に乗った」“Das schweigende Klassenzimmer”
(2018年、ラース・クラウメ監督、111min.)

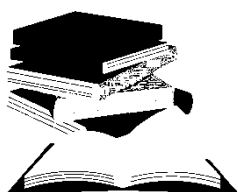
15:00～17:00「女は二度決断する」“Aus dem Nichts”(2017年、ファティ・アキン監督、106min.)

17:30～19:30「コッホ先生と僕らの革命」“Der ganz große Traum”
(2011年、セバスティアン・クロブラー監督、113min.)

申込： 入場無料。申込みは総領事館のホームページ www.japan.diplo.de/event20201128
へ(先着順)。複数の映画への申込みも可。申込み順に確認の返事を登録のメールアドレスに送信。中学生以上対象。入場は上映開始20分前より。上映開始後の入場禁止。

▼詳細は以下のホームページをご覧ください。

<https://japan.diplo.de/blob/2414018/6115015409613e325a32ac7f87679ae8/flyer20201128-data.pdf>



近刊書紹介 「ドイツ統一」

アンドレアス・レダー著 板橋拓己訳「ドイツ統一」(岩波新書1847)
2020. 9. 18発行

枘田 義一

前号にて10月3日にドイツが再統一30周年を迎えたことをお知らせしました。この30年の間に「ドイツ統一」について、その統一の経緯・過程を、それが統一後の旧東西の人々に与えている影響を、それが以後のヨーロッパ社会の政治・経済・社会に与えている影響などを述べた各種の著作が出版されてきました。

この本は、マインツ大学現代史講座の教授であるアンドレアス・レダー(Andreas Rödter)の「Geschichte der deutschen Wiedervereinigung」(2020)の全訳であり、統一30周年を迎えた年に翻訳され出版された「ドイツ統一」に関する堅実な概説書です。

本書は、「革命前夜」の章ではソヴィエトの終焉、東欧諸国の共産主義離れ、東ドイツにおける反対派運動の勃興など東ドイツの政治・経済・社会的背景と情勢が、「平和革命」の章ではパンヨーロッパ・ピクニックに始まる出国運動からベルリンの壁崩壊に至る過程が、「国民をめぐる転換」の章ではコール首相の10項目計画とそれに対する欧州各国の反応、東ドイツの終焉が、「再統一と世界政治」の章では1989年の壁崩壊の時点で迅速なドイツ再統一などありそうもないドイツでも西欧諸国でも考えられていた歴史的な大事件が可能になった情勢が、最終章「編入による統一」では統一条約や通貨同盟など統一のための諸制度について、統一という大変革による東ドイツにおける諸問題が、という諸項目が豊富な資料とともに分かりやすく簡潔に述べられています。「結語 歴史のなかのドイツ統一」では、19C半ばのドイツ帝国の成立以降世界情勢に左右されてきた「ドイツ統一問題」は、1990年の統一によって「初めて隣人たちとの協調の上で、いかなる戦争の微候もなく、成し遂げられ」、19C以来の「市民的＝自由主義的で民主主義的な運動の伝統である人民主権、自由、国民の統一」が初めて満たされたと結ばれています。

巻末に研究書と同様に「人名索引」、「関連年譜」、そして何よりも詳しい「解題付き文献表」が添えられているのもありがたいです。

会員の広場

ウイルス感染防止のために協会の行事・催しが出来ないために、会員相互の交流の機会を持つことが出来ずにいます。このコーナーは、会報を通して交流していただくための「広場」です。

ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第二月曜まで事務局へ)

ドイツ一筋に魅力にとりつかれて

最高顧問 北沢 誠太郎

小生は学生時代ドイツ語を専攻し、ドイツの歴史、国民性と優れた文学・音楽に感銘を受けました。1960年(S. 35年)ヤナセに入社し、憧れの Volkswagen、Mercedes BENZ の販売営業を35年間担当し、その間ドイツ車の卓越した性能を体験し、小生のドイツびいきにますます拍車がかかりました。1971年ヤナセ欧州研修旅行に参加、初めてドイツを訪れた時の感激は今も忘れることはできません。その後も度々ドイツに出張し、特に1985年VW本社 Wolfswurg で1ヶ月間マネジャー研修を受講し、ドイツ経営の神髄を学んだ事は大きな喜びでありました。

1991年、神戸日独協会に入会、1995年ヤナセ定年退職後、ドイツ語の再学習に取り組みました。1998年ライプチヒ大学短期留学は小生にとり大きな収穫でした。その後も2003年(H.15年)4月から、毎月ドイツ語談話室で自由に会話を楽しみ、17年間になります。小生にとりドイツ語習得は神戸日独協会のおかげであります。今後も“Die Fortsetzung ist Kraft”「継続こそ力なり」をモットーに頑張りたいと思います。

前置きが長くなりましたが、ドイツの魅力にとりつかれた次第を申し上げたいと思います。

1. ドイツ車に35年間携わり販売した事

(1)フォルクスワーゲン

1971年、当時は冷戦時代でドイツは西と東の分割状態にありました。第2次大戦後、荒廃したドイツ経済と国民生活を再建した大黒柱は自動車産業であり、特にフォルクスワーゲンでした。

自動車産業を再建するため、ドイツ民族資本メーカーは協定を結び、高級大型中型車は BENZ、PORCHE、BMW が生産を担当し、一般大衆車の小型車は Volkswagen のみが生産を独占しました。この見事な二分割の政策によりドイツ自動車産業は蘇り、高級車は BENZ、大衆車は Volkswagen が確固たる地位を占めました。Volkswagen は徹底した経営方針により単一車種で生産台数1100万台の世界新記録を樹立しました。

Volkswagen はその名の通り国民車です。VW 社の policy は国民のために車を造る、車両の低価格、低燃費、低維持費、アフターサービスの徹底を重視しました。Volkswagen (ビートルズかぶと虫)はドイツ国内で驚異的な人気となり、顧客は発注から納車まで半年以上待つ状態となりました。日本でも8ヶ月以上かかりました。VW 社は実にドイツの国民性を表す企業です。利益追求のかたわら、国家と社会への貢献、顧客への奉仕を社則としていました。

1971年(S. 46年)、小生が Wolfswurg の VW 本社工場を視察した時には多くの多国籍労働者

が働いているのを見ました。驚いた事にはトイレや各セクションの表示看板には10ヶ国以上の文字がありました。当時労働力不足は深刻な問題でした。何しろ第2次大戦でドイツは700万名以上の膨大な戦死者を出し、経済は冷え(生活は苦しく)、大不況下にありました。そのため、ドイツ政府は Gastarbeiter の名の下に多くの外国人労働者を招聘しました。小生がVW社の広大な工場内で目撃したのは少数のドイツ人の中で働く多くの多国籍労働者でした。その一方、ドイツ連邦政府は戦傷者を労り、各企業に従業員の10%は戦傷者の雇用を義務づけました。VW社で私達を案内説明してくれたのは義手の壮年のドイツ人社員でした。戦傷者には仕事を与え、お金はその結果手にするものというドイツの勤労精神を目の当たりに見て感銘しました。

当時日本では白衣の傷痍軍人達が街頭で寄附をお願いしている光景と正反対でした。ドイツ国民は「戦争で傷ついた軍人・市民の救済は国の責任である」という義務責任感に感服致しました。

(2) Mercedes BENZ

今から134年前の1886年カールベンツは世界初のガソリン自動車を開発しました。1895年最古の自動車会社 Daimler BENZ 社が創立されました。

当時から社則は “Das Beste oder nichts” 最善か無か

“Sicherheit als erstes” (“Safety First”) 安全第一

一切の妥協のないデザイン、何よりも優先された揺ぎない安全性能、常に最善を尽くしたクルマづくり、この哲学は130年後の今も脈々と受け継がれています。130年間に亙りドイツはじめ全世界の顧客から絶大な信頼を勝ち取りました。世界の富裕階級、王侯貴族、アラブの石油長者、主な政治家がこぞってメルセデスベンツを愛用しました。因みに北朝鮮の3代に亙る金一族も全てベンツを使用しております。小生も1960年～1980年にかけて、関西の多くのVIPにメルセデスベンツを購入していただきました。BENZの優秀性は驚くべきもので、小生が目撃した顧客のBENZの衝突事故で「車は潰れても、お客様は怪我なし安全」を目の当たりに見て改めて感心致しました。

ドイツの誇る大衆車の Volkswagen、高級車の Mercedes BENZ を長年に亙り販売にたずさわった小生は誠に幸せでありました。

2. Leipzig大学に留学して

ヤナセ定年退職後、週2回、神戸日独協会でドイツ語を学んでおりましたが、更に上達するにはドイツに留学する方が近道であると判断し、思い切って「ライプチヒ大学ドイツ語夏期集中講座」を受けた次第です。仕事上、又はパーティで片言のドイツ語で話した処、ドイツ人が喜び、うちとけた雰囲気になり、仲良くなった事を思い出します。語学はコミュニケーションに欠かせないと思います。

(1)ライプチヒ大学の授業内容

最初の試験の結果、私は第4クラスに編入され、老練なDr.ノーケ先生の下で、毎週月曜から金曜まで授業を受けました。午前は8:30から午後13:00まで授業、午後14:00から16:00まで課外授業があり、クラスは女子学生7名、男子学生4名、計11名の編成でした。

授業内容は文法、発音、会話、読書、作文からなり、これを補足するために毎日宿題が出されました。ノーケ先生は宿題と作文は徹底して指導され、赤ペンでチェックを入れ、再度学生に訂正やり直しをさせて再提出をさせられました。ここでの教育は詰め込み暗記方式ではなく、個人の能力、個性を引き出す教育でした。午後はグループ単位で課外授業があり、好きな科目を2個選択する

事ができ、私は歴史と写真を選びました。夏期講座には11ヶ国の学生132名が参加し、豊富な教授陣とドイツ人学生が中心となり研究討議が行われました。始めは英語、日本語も使われましたが、1ヶ月経つとすべてドイツ語で討議が行われたのは見事でした。

(2) 生活体験

生活必需品、食料品等には消費税は掛かりません。しかし、カメラ、貴金属、電器製品、高級ブティック、家具、自動車及びホテル、高級レストランでの飲食には14%の消費税が加算されます。要はゼイタクをしなければ、生活費は安くつくという事です。ムダを省くドイツ人の合理性には頭が下がります。

3. アメリカ同時多発テロに於けるドイツの対応

(1) 9月11日テロ事件発生当日

世界をゆるがせた同時多発テロ事件の当日、私と妻は北ドイツにある Lüneburg 郊外のドイツ人女性高校教諭の自宅で3時のおやつをいただいていた。丁度その時彼女の母親から電話が入り、アメリカが大変だからすぐテレビを見る様にと云われ、スイッチを入れた処、マンハッタンが煙に包まれ、世界貿易センタービルが炎上している信じられない光景を見て啞然とした。興奮したアナウンサーの早口のドイツ語は半分しか判らず、繰り返し聴いている内にアメリカ首都とニューヨーク中心部がテロ攻撃に襲われパニック状態にある事が判った。

夕食時、先生からTV放送は続けて見ますかと言われたが、私達が折角の先生の手作りのお食事をいただくのですから、とTVをお断りすると、先生は「私達は皆さんと楽しい夕食をいただけるのに、アメリカの人達は可哀そう」と涙ぐまれたのが印象的であった。

(2) 9月11日夜のTV放送とドイツの対応

その夜10時過ぎハンブルグのホテルに帰り、テレビを見続けた。ドイツ第2の大都市ハンブルグのTV放送は、英、独、仏、伊、露、スペイン、オランダ語等約30チャンネルあり(残念ながら日本語は無し)、どのテレビ局も一晩中報道していた。主にドイツ語と英語のTV放送を見て感じた事は、ヨーロッパ各国の対応が如何に早かったかと言う事である。

私はハンブルグ滞在中であったので、ドイツでの対応を報告したい。まずラウ大統領がベルリンのアメリカ大使館にお見舞い訪問、花輪を捧げテロ犠牲者に深い哀悼の意を伝えた。

次いでシュレーダー首相がTV放送で全国民に訴えていた。

「ドイツはこのテロ事件に深い憤りを覚える。これはアメリカのみでなく全世界の文明社会に対する攻撃である。ドイツが今日あるのは、アメリカの多くの援助と温かい友情のおかげである。今度は我々がアメリカを助ける番である」

そこで1963年ケネディ大統領がベルリン訪問時にドイツ国民を励ましたあの有名な言葉“*Ich bin ein Berliner*”「私は一人のベルリン子である」に対して、シュレーダー首相は“*Wir sind alle Amerikaner*”「我々は全員アメリカ人である」との感動的な言葉で演説を締め括った。

ニュースは引き続き、ドイツは即刻戦時に相当する「第一級警戒態勢」を発動、直ちに国内のアメリカ大使館、領事館、米軍基地及びイスラエル大使館等に厳戒態勢を実施した。またすべての官庁、公共施設に半旗を掲げる事を命じた。更にシュレーダー首相を議長とする国家安全保障会議を11日夕刻に招集、首相は当面の外遊をすべて中止、野党も「政党間の政争を中止する」とキリスト教民主同盟幹部が宣言。与野党が一致して米国に協力方針を打ち出した。(続く)

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

「飢餓のない世界」を目指して

会員 柘田 節子

今年のノーベル平和賞は、国連世界食糧計画(World Food Programme WFP、本部ローマ)の受賞が決まりました。被災地域や紛争地での食料配布などを通じて、人道支援やさらなる紛争の予防に貢献していることが評価されての受章とのこと。時を同じくしてDWで「世界の飢餓問題」についての記事を読みましたので、報告します。

記事では、「ここ数年の間に多発化する紛争や気候変動により、世界で飢餓に困窮する人の数は厳しい状態へと逆戻りし、このコロナのパンデミックで更に深刻化している」ことが先ず指摘され、ドイツの「NGO飢餓援助機構(Deutsche Welthungerhilfe e.V.)」の Mogge 事務局長の「コロナ集団感染とその経済的な悪影響によって、差し迫った食糧危機に困窮する人の数は2倍になる」との警告も紹介されています。

2015年に国際社会は2030年までに人々の生活を改善するために17の目標からなる「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択しました。その2番目の「飢餓をゼロに」という目標は、「飢餓を終わらせ、食糧安全保障を実現し、栄養状態を改善するとともに、持続可能な農業を促進する」というもので、国連世界食糧計画(WFP)の優先課題となっています。

国連総会によって9月29日が「食品ロスと廃棄に関する啓発の国際デー」に制定され、それを記念して各国で様々なイベントが開催されました。ドイツでは連邦経済協力開発省によってオンライン会議が開催され、同省の Gerd Müller 大臣は、「飢餓のない世界」の目標は、国連が掲げる「持続可能な開発目標2030(SDGs)」と同様に、実現可能であるとの確信を述べています。

「飢餓なき世界を構築することのために、できることは何か？」について、WFPと幾つかの国際機関による調査結果によれば、今後10年間に毎年1400万ドルが付与されると世界は飢餓から解放されうとのこと。この金額について Müller 大臣は「今年度700億ドルが追加的に世界規模で軍備支出されたことを考慮すると、毎年1400万ドルの必要額は『ささやかな』ものである」と述べ、「人間の命を救うよりも重要な目標そして大きな使命はあるだろうか」と会議で問いかけました。

同会議の参加者からは、飢餓を克服するためにはお金の問題だけではなく、賢明で持続可能でかつ全体的な政策が行わなければならないことが指摘されています。裕福な人たちによる食糧の浪費によるばかりではなく、食糧の輸送・貯蔵・不十分な冷却の際の避けられないほどの損失にもより、食料品の3分の1が食されずゴミ箱に捨てられているとのこと。特に国際的な食糧貿易に対して不安を持っている小規模農業者たちへの支援も指摘されています。

「飢餓なき世界」に対しては、気候保全対策に対する「未来のための金曜日(Fridays for Future)」運動のように、私たちは「飢餓の終結(Ending hunger)」のために世界規模の運動を提起するべきではないだろうか、と記事は結んでいます。

Deutsche Welle: Ziel: Eine Welt ohne Hunger (14.10.2020)より。

(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座講読クラスLN(火曜日)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています)

ドイツ語談話室

第200回ドイツ語談話室

日 時： 2022年10月17日(土) 14-16時

場 所： 神戸日独協会会議室

テーマ： コロナ禍での生活様式

今回の司会は松浦庸夫氏が担当され、自らの生活について、コロナ禍で外出や外食することがなく、大抵家にいてテレビばかり見ている。大抵NHKを見ているが、それでNHKは新しいプログラムの制作が困難なためか、同じ番組を何度も再放送していることに気づいた。

次に参加者の皆様が各々自分の生活について述べられた。以下その一部を紹介する。

ー横浜に住んでいる娘が44歳で初めて出産した。会いに行きたいのに、コロナ禍のため、病院にも娘の家にも行けなくて困っている。

ーテニスが趣味で、週2回テニス会があったが、今春以降無くなってしまったので、人の少ない早朝と夜夫婦で散歩している。今が散歩には一番良い季節で、樹木や花を見るのが楽しい。

ースポーツやコンサートが殆ど中止になったので、近くの小さな旅行を楽しんでいる。最近、妻と共に「天橋立」に行き、その付近を散歩した。

ーほとんど家にいることが多い。先日阪急六甲近くの古くからあるプロテスタント教会に行ったが、参加している人の数は少なかった。家では、NHKラジオのドイツ語や英語の講座をよく聴いている。また、ドイツ語の推理小説を読んだりしている。

ー大抵、家にいるが、時々スポーツクラブで色々なスポーツや体力増強のためのトレーニングを行っている。自分の免疫力に自信を持っているので、コロナウィルスに対してあまり恐れを抱いていない。

ー家の庭で色々な野菜を作っている。例年、外国旅行や国内旅行を楽しんでいたが、本年はそれができなくて残念である。今年の夏に一度長野県の山を散歩した。

ー毎日中国の体操をして、健康を保持している。レストランに行けないので、時々バルコニーでバーベキューなどでの食事を楽しんでいる。

ー大抵、家にいて、音楽を聞いて楽しんでいる。また時々、身体を動かすために、家の庭の掃除をしている。

今後のドイツ語談話室の予定

第201回 2020年11月21日(土)14-16時 アメリカの次期大統領

第202回 2020年12月19日(土)14-16時 冬季特にクリスマス・正月の食べ物

Deutsche Gesprächstunde

Protokoll der 200. Deutschen Gesprächstunde

Zeit: Samstag 17. November 2020, 14 bis 16 Uhr.

Thema: Wie verbringe ich meine Zeit während der Corona-Krise?

Dieses Mal hatte Herr Tsuneo Matsuura die Gesprächsleitung und sprach von seinem Alltag. Fast immer ist er zu Hause und sieht mit seiner Frau fern. Er hat bemerkt, dass NHK dieselben Programme wiederholt sendet, vielleicht wegen der durch die Corona-Krise verursachten Schwierigkeiten bei der Herstellung von neuen Sendungen.

-Eine Teilnehmerin berichtet, dass ihre Tochter in Yokohama nun mit 44 Jahren ihr erstes Kind entbunden hat. Wegen der Ansteckungsgefahr kann sie jedoch ihre Tochter und das Baby weder im Krankenhaus noch zu Hause bei ihrer Tochter besuchen.

-Ein Teilnehmer spielte früher zweimal pro Woche Tennis. Seit Beginn der Corona-Krise im Frühjahr ist ihm das nicht mehr möglich. Er macht nun zusammen mit seiner Frau frühmorgens oder später am Abend Spaziergänge. In dieser Jahreszeit sind Bäume und Blumen besonders schön zu betrachten.

-Ein Teilnehmer macht mit seiner Frau kleine Reisen. Früher war er es gewohnt, Sport zu treiben oder Konzerte zu besuchen, aber die meisten Veranstaltungen sind jetzt abgesagt. In der letzten Woche besuchten er und seine Frau "Amano-Hashidate" in der Präfektur Kyoto, wo die beiden einen langen Spaziergang machten.

-Eine Teilnehmerin bleibt die meiste Zeit zu Hause. Vor einigen Wochen besuchte sie eine alte evangelische Kirche in der Nähe vom Bahnhof Rokko. Es waren nur wenige Leute dort. Zu Hause hört sie den Radiodeutschkurs von NHK sowie den Kurs in englischer Konversation. Auch liest sie jetzt einen Kriminalroman auf Deutsch.

-Eine andere Teilnehmerin, die auch die meiste Zeit zu Hause verbringt, besucht ab und zu ein Fitnesscenter, um bei Kräften zu bleiben. Sie macht sich nur wenige Sorgen wegen einer Infektionsgefahr, weil sie glaubt, sich ihr Immunsystem gut erhalten zu haben.

-Eine Teilnehmerin baut in ihrem Garten Gemüse an. Sonst hat sie jedes Jahr mit ihrem Mann verschiedene In- und Auslandsreisen unternommen. Letzteres ist nun nicht möglich. Sie sind in diesem Sommer in der Präfektur Nagano auf einen Berg wandern gegangen.

-Eine Teilnehmerin macht täglich chinesische Körperübungen, um sich zu stärken. Da sie Restaurants etc. nun meidet, essen sie und ihr Mann nun öfter auf dem Balkon, wo sie z.B. grillen.

-Ein Teilnehmer ist die meiste Zeit zu Hause und hört Musik oder er bemüht sich, seinen Garten sauber zu halten.

Nächste Treffen :

Samstag 21. November 2020, 14 bis 16 Uhr. Thema: Der nächste Präsident der USA

Samstag 19. Dezember 2020, 14 bis 16 Uhr. Thema: Speisen im Winter besonders an Weihnachten und Neujahr.

11月の実行委員会のお知らせ

11月の実行委員会を下記のとおり開催します。実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。今回は、クリスマス祝賀会など今後の行事について話し合います。

日 時： 11月15日(日)15時～

場 所： 神戸日独協会会議室

事務室からのお知らせ

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は12月10日(木)を予定しています。

お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL/FAX 078-230-8150)。

印刷： 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送： 神戸日独協会にて、12:30～

これからの神戸日独協会の催し

行事及び催し物の開催については、ウイルス感染防止のため日時の確定及び実施が極めて流動的ですので「一覧表」は割愛させていただき、その都度別途「協会ホームページ」でお知らせいたします。「協会ホームページ」でご確認いただくか、あるいは協会事務室へお問い合わせください。